

## 第1回定例研修会/CISJ

### 特別講演「Soft Tissue Management for Periodontal and Peri-Implant」

講師：鈴木 真名先生

会員発表/ティッシュマネジメントシンポジウム

日時：平成25年5月26日(日)

場所：東京ステーションカンファレンス



青木 暁宣 (千葉県)

平成25年5月26日(日) 10:00~17:30 東京ステーションカンファレンスにて、平成25年度一般社団法人日本インプラント臨床研究会 総会、第1回定例研修会が開催されました。

午前中のプログラムは、まず会員発表として、鳥居秀平先生、高橋純一先生、梅津正喜先生の3名からご発表がありました。

鳥居秀平先生の演題は、「ボツリヌス毒素を利用したインプラント治療の一検討」で、ボトックス注射施行により、咬筋のボリュームが減少するとともに、咬合の安定を図るといった内容でした。

高橋純一先生の演題は、「上顎大白歯における抜歯後即時埋入について」で、上顎大白歯口蓋根抜歯窩に抜歯即時埋入、傾斜埋入し、その他の根の抜歯窩に同時に骨増生をする事により低侵襲治療可能であったという内容でした。

梅津正喜先生の演題は、「インプラント及び、歯周外科におけるPRGF Systemの有効性と臨床応用」

で、PRGFについて、システム概要および、実際の手技、実践までの盛りだくさんの内容でした。

3人の先生方は、歯周病学会専門医であり、それぞれ視点を変えてご講演をして頂き大変勉強になりました。

ショートブレイクを挟み、ティッシュマネジメントシンポジウムとして、湯浅慶一郎先生、岩野義弘先生、中原達郎先生の3名からご講演と、ディスカッションが行われました。

湯浅慶一郎先生の演題は、「天然歯およびインプラントにおける軟組織のマネージメント」と題して、インプラント周囲には適切な幅の角化歯肉の存在が有利であるという内容でした。

岩野義弘先生の演題は、「下顎臼歯部インプラント治療における軟組織のマネージメント」と題して、おもにLateral incision techniqueを用いたLateral ridge augmentation(Buser法)について、概要、手技、実践についてと、二次手術時に角化粘膜







幅の増大を施行している症例発表でした。

中原達郎先生の演題は、「インプラント埋入前のティッシュマネジメント」と題して、全てのインプラント治療症例において、術前の歯周治療の徹底が必要不可欠であり、同時に予後に直結するという内容でした。

総会、昼食を挟み、午後からは特別講演として、鈴木真名先生より

「Soft Tissue Management for Periodontal and Peri-Implant」という題目で、ご講演頂きました。

審美領域における軟組織の再建法について、歯とインプラントでは、考え方や手技の内容の違い。Connective tissue graft を、Root Coverage Procedure, Ridge Augmentation Procedure, Papilla Reconstruction Procedure に分類し、それぞれ多数の症例呈示しながら、具体的に詳しく、分かりやすく細かい手技内容についてもご講演頂きました。

鈴木先生は、全てのケースにMicroscopeを使用されているそうです。自分の今までの感覚では、GBRが必ず必要と考えられる様な骨も欠損している様な症例でも、結合組織移植のみで対応し、術後は審美的に改善されていました。結合組織移植に不可能は無いのではないかと思える程で、どの症例一つを拝見させて頂いても、完璧な仕上がりであった事が印象的でした。

自分はまだまだ実力も知識も経験も足りませんが、今回の定例研修会を通して、学んだ事を少し



でも生かし、日々の臨床に繋げて頑張りたいと思います。

参加させて頂き、大変勉強になりました。ありがとうございました。